

小児科

小児外科

病棟 東病棟 5F

外来 外来診療棟C 3F 連絡先 022-717-7758(外来)、717-7024(夜間・休日受付)

ホームページ <http://www.ped-surg.med.tohoku.ac.jp/>科長
仁尾 正記 教授

主な対象疾患

- そけいヘルニア ●停留精巣 ●臍ヘルニア ●肥厚性幽門狭窄症 ●腸重積症 ●急性虫垂炎 ●胃食道逆流症 ●頸部瘻孔・囊胞
- 小腸・大腸・肛門の疾患(小腸閉鎖・鎖肛・ヒルシュスブルング病など) ●腸管不全/肝胆道疾患(胆道閉鎖症・胆道拡張症など)
- 門脈圧亢進症 ●肺・縦隔・食道疾患(囊胞性肺疾患・食道閉鎖・狭窄症など) ●胸壁・腹壁の異常(漏斗胸・臍帶ヘルニア・腹壁破裂など)
- 横隔膜の異常(横隔膜ヘルニアなど) ●良性腫瘍(血管腫・リンパ管腫・奇形腫など) ●悪性腫瘍(神経芽腫・肝芽腫・腎芽腫・悪性胚細胞腫瘍など)

診療内容

(1)各領域の専門家が最先端の医療を行いつつ、Common diseaseも対応しています。

当診療科は、新生児外科、小児消化器外科、小児肝胆道外科、小児呼吸器外科、小児移植外科、小児腫瘍外科、小児内視鏡外科といった各領域の専門家が最先端の医療を行っています。一方、虫垂炎などの救急疾患やそけいヘルニアや便秘などの日常的疾患にも広く対応しています。

(2)関連診療各科と協力して治療を行います。

小児科、産婦人科、外科系各科等、関連診療各科や中央診療部門、さらに東北大学病院以外の施設とも密に連携しています。集学的な治療が必要とされる小児がんにおいても、当診療科は関連各科と連携して治療を行うことができる全国有数の施設です。また、CLS、小児精神科医や児童心理学者と協力して子供達や親御さんに対する心理的ケアを行い、理想的な外科医療の提供を目指しています。

(3)胆道閉鎖症治療のパイオニアです。

東北大学の故葛西森夫名誉教授が、世界で初めてその根治手術(葛西手術)を開発して以来、世界有数の豊富な臨床経験に基づき、術前術後管理、合併症の治療を含め、世界の指導的立場にあります。

(4)腸管不全治療を積極的に行ってています。

短腸症、腸管機能不全(ヒルシュスブルング病類縁疾患など)に対して、静脈栄養～小腸移植までを一貫した腸管リハビリ(機能回復)プログラムを行っています。当院は国内に12施設ある小腸移植実施認定施設にも認定されており、小腸移植は当科が担当しています。

(5)小児に対する内視鏡手術を積極的に行っています。

(6)低侵襲手術・整容的手術を積極的に行っています。

診療体制

仁尾正記(教授)、和田基(准教授)、佐々木英之(講師)、工藤博典(助教)、福澤太一(助教、医局長)、安藤亮(助教)、大久保龍二(助教)
新患外来(月/木曜日、午前) 仁尾正記、肝胆脾外来(月曜日、終日) 仁尾/佐々木、腸管不全(月/水) 和田/工藤/安藤、腫瘍(木曜日、午前) 福澤、消化器/呼吸器/横隔膜(木曜日、午後) 工藤/安藤、直腸肛門/泌尿生殖器(金曜日、終日) 安藤/和田

得意分野

当科は、胆道閉鎖症をはじめとする肝胆道疾患、ヒルシュスブルング病(および類縁疾患)や腸管不全に関して、全国から多くの症例が集まる日本を代表する施設の一つです。また、さまざまな疾患に対して、術後の整容性に優れたアプローチや術式を採用し、できる限り侵襲が少ない手術を行っています。



図1: 小児内視鏡手術

内視鏡手術は、成人では市中病院でも広く行われていますが、小児領域では専門性が高く、限られた施設でしか行えません。当科では新生児を含めて積極的に行っています。



図2: 低侵襲手術・整容的手術の取り組み(H病の術前管理中のレントゲン)

多期的手術による麻酔・手術の侵襲を軽減するため、様々な工夫をしています。ヒルシュスブルング病・鎖肛に対する新生児期・乳児早期一期的根治手術を積極的に行っています。

図3: バキュームベルによる漏斗胸治療
漏斗胸治療は、手術だけでなく、バキュームベルによる陰圧療法を行っています。

図4: 臍部切開による開腹手術創(肥厚性幽門狭窄症術後)

新生児・乳児に対して整容性に優れた臍部切開による開腹手術、腋窩切開による開胸手術を積極的に導入しています。

ご紹介いただく際の留意事項

■新患外来を月曜と木曜の午前に行ってます。初めて当科を受診される際には新患外来にご紹介ください。急患患者さんに関しては24時間体制で受け入れておりますので、いつでもご連絡ください。